

景観学習教室の紹介

明日の青森県を担う子どもたちにふるさとの美しい景観を守り、育てていくことの大切さを学んでもらうため、県から景観の専門家を講師として学校へ派遣する「景観学習教室」を実施しています。

授業では、景観に関する基礎的な学習に加え、学校周辺のまちなみや自然を実際に観察する「まち歩き」などの体験型プログラムを取り入れ、子どもたちが楽しみながら地域の景観について学べる教室となっています。

この事業は平成14年度から実施しており、令和8年度までの24年間で、累計178校、累計児童数6,848人が参加しました。

毎年度当初に参加校を募集し、応募のあった県内の小学校を対象に実施しています。対象は小学校3年生から6年生で、総合的な学習の時間や社会科などを活用し、地域の歴史や景観づくりを学ぶ学習の一環として取り組んでいます。

I 座学中心タイプ（授業1回）

1 授業の内容

学校の希望や、講師によって授業の内容は違ってきますが、以下の内容を学んでもらいます。

- 景観は、山や川などの自然と、建物や道路など人がつくったものが調和してできていること
- 景観は、人々の暮らしや文化、まちづくりによって変化していくこと
- 美しい景観を守るには、清掃や手入れなど、人の手による維持・管理が大切であること
- 同じ場所でも季節や時間、見る位置や角度などによって見え方が異なり、人によって感じ方が違うこと
- 身近な景観には、人の心を和ませたり、地域への愛着を育んだりする力があること
- 観光地だけでなく、自分たちが暮らす地域にも、魅力的な景観や大切にしたい景観があることに気付くこと
- 自分達が住んでいるまちの景観を意識し、それを「いいな」と思える心を養うこと
- 良い風景を未来に残していくために、自分たちにできることを考え、行動につなげること

2 授業の流れ

■授業例（約45～90分の場合）※授業時間によっては、探索やワークショップ等は省略となります。

- ① 講師による講義（副読本使用）・・・約20分
- ② 優れた景観の事例紹介（スライド・写真など）・・・約25分
- ③ 学校周辺等の探索やワークショップ（好きな景観・嫌いな景観探し）・・・約30分
- ④ 学習発表（各自の発見やよい景観を守るために自分にできることの発表）・・・約15分

3 授業の様子



Ⅱ まち歩き中心タイプ（授業１～３回）

１ 授業の内容

この学習では、景観を「地域の歴史や文化、人々の暮らしが映し出された風景」と捉え、子どもたちが普段見慣れている学校周辺や地域の景色を改めて観察します。

「いつも見ている景色だけど、よく見ると新しい発見がある」「どうしてこの風景ができたのだろう」といった気づきを大切に、その理由や背景を自分たちで考え、調べる学習を行います。

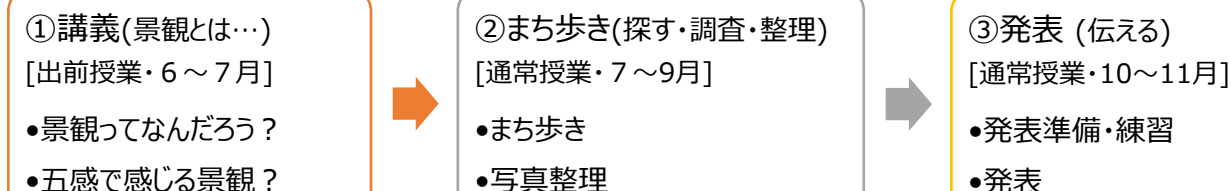
講師は、景観の見方や観察のポイントを分かりやすく伝えながら、子どもたちの「気づく力」「考える力」「調べる力」「伝える力」を育むことを目指します。

景観を通して、自分たちの住む地域への理解や愛着を深め、ふるさとの魅力を未来へ受け継いでいこうとする心を育てることが、この授業の大きな目的です。

２ 学習の流れ

■ 全体の流れ

下記を学習全体の標準的な流れとし、「①講義,②まち歩き」の部分を講師による出前授業で実施します（各校の授業テーマに合わせて内容は調整します）。



■ 出前授業の流れ

第１回講義【座学】（１時間程度）

○「景観」について、副読本・優れた景観の事例紹介を用いて講師による授業を行います。

第２回講義【まち歩き】（２時間程度）

○グループに分け、学区内を探検する。（まち歩きルートは各校に合わせて調整）

○好きな景観・嫌いな景観・気になる景観～「おや？」「あれ？」と思う景観を探し、写真を撮影。（デジタルカメラ等は台数が足りれば県から貸し出し）

○まち歩きから戻り次第、撮影した写真の中から、好きな景観・嫌いな景観・気になる景観を１～３枚選んでもらい、『なぜそう感じたのか』、『写真のタイトル』など発表してもらう。

第３回出前授業【発表】（１時間程度）

○景観学習で学んだこと、考えたこと、やってみたいことなどをまとめ、整理した成果をクラスで発表
※発表の仕方は様々、グループごと、参観日や学習発表会など…

授業の様子



※景観学習教室実施前に、小学校、県、景観アドバイザーと事前打合せを行い、授業の詳細を決定。